

現代ガリシア語における 敬称の形式に関する考察

浅 香 武 和

はじめに

現代ガリシア語の文法書の多くは、敬称の記述について人称代名詞 *vostede* 「あなた」(pronome persoal de cortesia) の説明をしているのが一般的である。ガリシア語には、このほかに消滅寸前の敬称の形式が僅かではあるが生きながらえている。

小稿は、さまざまな敬称の形式 *vós*, *el /ela*, *o tío / a tía* について、その体系から特性を比べ、とくに社会的関係のダイクシス (*deixis* 対象指示)、起源と進展を考察して構造的な観点から分析を試みる。最初に *ti* と *vostede* を比べると、次のように表すことができる。(Normativo oficial 規範形式による)

Ti sabes inglés, pero eu non. きみは英語が話せるが、ぼくは話せない。

Pase vostede primeiro. あなたが最初にお入りください。

表 1

| | <i>ti</i> きみ | <i>vostede</i> あなた |
|-----------|--------------|--------------------|
| ダイクシス | 親称 | 敬称 |
| 動詞形態パラダイム | 二人称単数形 | 三人称単数形 |
| 対称 | 二人称 | 二人称 |

1. 敬称の形式についての問題点

敬称の *vostede* (異形態として *vostê*, *vusté*, *vustedede*) は、19世紀から20世紀に刊行されたガリシア語の辞書には見出し項目にあらわれているが、現代

ガリシア語の文法書は敬称の人称代名詞について、その説明は十分に尽くされてないのが現状である。敬称の形式 *vostede*, *vostedes* のパラダイムは三人称単数形と複数形であり、19世紀から慣習的に使用される形式である。今日、限られた地域で伝統的な形態の *vós*, *el* (異形態 *ele*, *il*), *ela*, *eles* (*iles*), *elas* が使用されると、ガリシア学士院 Real Academia Galega (以下 RAG), *Normas* (2012:88) には記されているが、伝統的な敬称の復活の兆しはないようだ。

Freixeiro Mato (2006:120) の文法書には、もう少し詳しい説明がなされているので検討してみたい。ある人物に言及するばあい、敬称形式がよくわからないときには *el*, *ela*, *eles*, *elas* のような古い形式が話し言葉の中で使われている。その例として、**El** *ten moito traballo, bóttolle unha man?* (あの人はよく働く、あの人に手を貸してあげようか?) この場合の *el* は、敬称 *vostede* と親称 *ti* の中間的な形式である。さらに **Vós** *chegastes esgotado, non si, avó?* (おじいちゃん、疲れたんじゃないかい。) この場合の *vós* は一人または複数の対話者に向かって敬称の意味で不変の *vós* を使用する古い用法である。この使い方は消滅する傾向にあるが、年配の人に対する形式として温存されている。*Vós non estades ben de saúde.* (あなたは健康状態が良くないのではありませんか。または、君たちは健康状態が良くないのではないかい。) この例は、一人以上の対話者にたいして曖昧な意味としてとらえられる可能性がある。動詞は常に二人称複数形となる。次に、明らかに敬称と分かる文がある。**Vós**, *señor, sodes caritativo.* (あなた様は、思いやりがありますね。) また、今年(2019)封切られたガリシアのルーゴ県コウレールを舞台にしたオーリベル・ラシェ監督『O que arde 燃えるもの』の台詞に、*Inacio, e o Amador non podería traballar con vós? — E il quere?* (イナシオさん、ところでアマドールはあなたと働くことはできないかね? — 彼は望んでいるのか?) この文の *con vós* は *convosco* と同義語で古形で敬称である。人名定冠詞 *o Amador* の使用は、息子のアマドールに親愛を込めていると解釈できる。

一方、敬称の *o tío / a tia* の形式が存在するが、RAG, *Normas* にも Freixeiro Mato の文法書にも言及されていない。唯一、RAG, *Dicionario* (1990:747) には、見出し語 *tío* の項目の3番目で、ある地域では年配の人々に敬意を表す形式と見える。*Isto díxomo o tío Andrés e créollo ben.* (これはアンドレス氏が私に言ったことで、彼の言うことをよく理解できる。) 同意語に *SEÑOR* とある。さらに調べると、Estravís (1995) の辞書には詳しい説明が施されている。村の中で、ある年齢以上の男性と女性につける尊敬の形式であり、定冠詞をつけずに *teu tío* と使われるとある。親族名詞をしたがえる所有形容詞の前に

定冠詞 *o* をつけないのが敬意を表す文法上の規則があることによるものだろう。また、会話のなかでは *tío* の省略形 *ti* も頻繁に使われる。主語 *ti* と省略形 *ti* の識別も不明瞭なところがある。

このように古い形式が使用されるのは分かるが、ここで、人を呼ぶとき、主語として使われるときに言及する形式を考えると、使用する方法に問題が生じる。形式 *tío* の場合は、2つの用法が考えられる。呼格としては **Tío**, *quere cear hoxe connosco?* (あなた、今日私たちと一緒に夕食いかがですか?) 主語として **O tío** *quere cear hoxe connosco?* (あなたは今日私たちと夕食いかがですか?)

II. さまざまな敬称の形式の分析

II-1 VOSTEDE / VOSTÊ「あなた(貴男・貴女)」

現代ガリシア語の敬称として RAG が推奨する形態は *vostede* である。この敬称を使用する年齢はおおよそ 40 歳以上の社会的地位にある未知の人に向けて使うとある。(Álvarez e Xove 2002:545) 口語ガリシア語では単数形 *vostê*, 複数形 *vostês* の異形態がある。

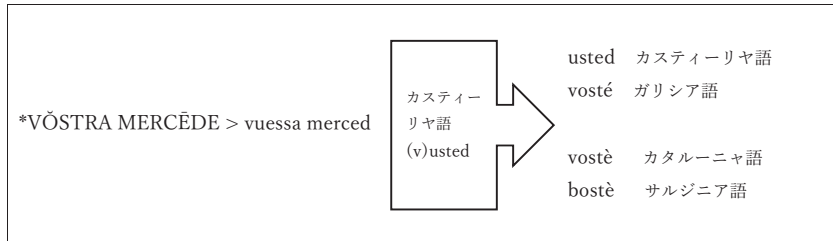
私は、かつて一度お会いして立ち話程度をしたことのある同性同年齢の方に、数年後たまたまお会いしたことがある。その方は私に、*Vostede é o señor Asaka?* (あなたはアサカさんですか?) と尋ねてきた。また別の人は、*Quere vostede que sirva xa o xantar?* (もうお昼ごはんの用意をしましょうか?) のような丁寧な表現で話しかけられたこともある。このように *vostede* の使用は一人の人物に対して、敬意をもって話す礼儀正しい表現方法として使用される。この形態はカスティーリャ語の *usted* が起源とされ、16 世紀に *vuessa merced* から派生した。ガリシア語とカタルーニャ語にはカスティーリャ語の影響により取り入れられ、*vuessa merced* > *usted* のように進展し、敬称として新たな形式が取り入れられるようになった。イベリア半島全域で、俗ラテン語が起源となる格式のある用法は、通常 *vuessa* の敬称として二人称複数形の *vós* であった。

Carballo Calero (1979:193) は *vostede* を特別の信頼関係を結んでない一人の人間にたいして話すとき、儀礼上使用されると説明している。その起源は *vossa mercede* であるが、カスティーリャ語の *vuestra* から進展して *t* が残り *vostede* になったとしている。この形態をカスティーリャ語主義と呼んでいる。**Vostede**, *señor*, *aínda é novo*. (あなた、旦那さんは、まだ若いです。) の用

例がある。

カスティーリャ語の *usted* は、ガリシアの地域に徐々に敬称として *vostede* とともに広まるようになり、*usted* と *vostede* が 20 世紀まで共存していた。そして *vostede* は都市のことば [+urbano] として、社会的に敬称の地位を勝ち取ることになった。こうして、ほかの敬称は今日では田舎のことば [-urbano] として捉えるようになり、社会言語学上、下位に追いやられてしまった。*Vuessa merced* から進展したカスティーリャ語の (v) *usted* はイベリア半島全域に広がり、カタルーニャ語の支持でサルジニア語までに到達した。

図 1



カスティーリャ語の形式を取り入れた3つの言語は古い敬称 *vós* を消滅させなかった。すなわち、ガリシア語、カタルーニャ語、サルジニア語は古い形式を残しながらも、パラダイム的には異なるが2つの敬称が共存することになった。

ガリシア中世を扱った小説に古い敬称 *vosa mercé* の使用を見つけることができる。Mi padre! Que vai facer **vosa mercé**? (あなた様。貴殿は何をなさいます?) / Mi padre: eu tamén von ir con eles; niso quedaremos antes de que **vosa mercé** chegase. / **Vosa mercé** toleou ou que? (あなた様、私も彼らと参ります。貴殿が到着する前にそこに私たちは居りました。貴殿は我慢されましたか、それともどうなさいました?) (Lema 2013: 388, 391)

II-2 VÓS「あなた(貴方)」

敬称 *vós* の対称は 2 人称単数と 2 人称複数、動詞のパラダイムは 2 人称複数形である。

Álvarez / Monteagudo / Regueira (1986:161) に ¿**Vós estades** cómoda, madriña? (教母さん、あなたはくつろいでいますか?) という文がある。ガリシアの農村部で年配の人の会話で特別な感情を示すとある。現代ガリシア語では、

複数において親称と敬称の区別をなくしている。したがって敬称の意味が文脈の中で解釈できない曖昧性を誘発することが頻繁におきる。例えば、E **vós**, xa recollestes o voso fillo da escola? (ところで、あなた方はもう学校からお子さんを引き取りましたか? 又は、ところで、あなたたちはもう学校から子供を引き取ったのか?) こうした解釈から **vós** の様々な意味が考えられる。現代ガリシア語について、RAG の記述は二人称複数形には **vós**, **vosoutros** の2つの形態があり、それぞれ包括的二人称と排他的二人称の説明がある。

このような曖昧性から **vós** について考えると次のように表すことができる。

表2

| | ダイクシス | 対称 | パラダイム |
|-------|-------|-------|--------|
| vós 1 | 敬称 | 二人称単数 | 二人称複数形 |
| vós 2 | 敬称 | 二人称複数 | 二人称複数形 |
| vós 3 | 親称 | 二人称複数 | 二人称複数形 |

現代ガリシア語では、**vós** の用法の曖昧性と同時にカステイーリャ語の影響から **vostede** の形式を受け入れるようになったと考える。こうしてその用法は明確に理解される。

- 1) E **vós**, xa recollestes o voso fillo da escola? とところで、あなたたちはもう学校から子供を引き取ったのか? 又は、ところで、あなた方はもう学校からお子さんを引き取りましたか?
- 2) E **vostede**, xa recolheu o seu fillo da escola? とところで、あなたはもう学校からお子さんを引き取りましたか?
- 3) E **vostedes**, xa recolleron o seu fillo da escola? とところで、あなた方はもう学校からお子さんを引き取りましたか?

この構造から、次のように表すことができる。

表3

| | ダイクシス | 対称 | パラダイム |
|--------------------|-------|-------|--------|
| 1) vós | 親称 | 二人称複数 | 二人称複数形 |
| 2) vostede | 敬称 | 二人称単数 | 三人称単数形 |
| 3) vostedes | 敬称 | 二人称複数 | 三人称複数形 |

したがって、vós は現代ガリシア語では衰退の道をたどり、その位置は ti と vostede の中間にある。それにもかかわらず、現代ガリシア語には敬称および尊称に vós は未だに存在しているが失速している。Frías Conde (2011) は、ガリシア州コルーニャ県西部 (Costa da Morte, Terra de Soneira) とルーゴ県フオンサグラダ市 (Fonsagrada)、さらにはエストゥレマドゥーラ州カーセレス県 (Val do Ellas) では敬称の vós が使用されていると記している。

Val do Ellas の人称代名詞の形式は次のようである。

表 4

| | | | |
|---------|---------|---------|------------|
| 一人称単数 | ei | 一人称複数 | nós |
| 二人称単数 | tu | ----- | ----- |
| 二人称単数敬称 | vós | 二人称複数敬称 | vós |
| 三人称単数 | el, ela | 三人称複数 | eles, elas |

例えば Val do Ellas 地域で、**Vós** como vos encontráis? (あなたのご機嫌いかがですか?) のような文は **Vostede** como se encontra? と同意である。(Costas González 2013:154)

これらの地域では、先にあげ例文は敬称として E **vós**, xa recollestes o voso fillo da escola? (ところであなたは、もう学校から子供をひきとりましたか?) が現存している。これらの古語の使用は次のように表すことができる。

表 5

| | 単数形 | | 複数形 |
|----|-----|-------|-----|
| 親称 | ti | 敬称・親称 | vós |
| 敬称 | vós | 敬称・親称 | vós |

ルーゴ県フオンサグラダ市において敬称の使用について実験した例文をあげる。(メールによる 2019.5.25. インフーマント S 氏 75 歳男、フオンサグラダ市サンマルティン・デ・スワルナ出身 San Martín de Suarna)

「タバコをお持ちですか?」という文をガリシア語で尋ねると、① **Vós** tedes tabaco? / ② **Vostede** ten tabaco? / ③ **O tío** ten tabaco? / ④ **O señor** ten tabaco? /

⑤ **O David ten tabaco?** (特定の人物ダビエに向けて)

いずれも正しい文であるが、現在、最も自然に敬称を表す表現は **Vostede ten tabaco?** である。現在のフォンサグラダ市のガリシア語には、敬称の二人称単数 *vós* の使用はほとんどないようである。

一方、コルーニャ県西部ビミアンソ市 Vimianzo 出身の67歳男性にメールによる質問調査をお願いしたところ(2019.7.03)、*vós* はまだ使われているとのことである。個人的見解では、待遇形式として年配の人に向けて発するために使用されるとのことである(口頭による2019.7.24)。ビミアンソとは別のコルーニャ県西部出身の30歳代の女性にインタビューしたところ、現在でも両親世代は会話の中で年配の人に *vós* の敬称はよく使われているとのことである(口頭による2019.7.24)。フォンサグラダ市の場合と同じ文をビミアンソの男性に質問したところ、**Vós tedes tabaco?** の文が普通の言い方であるということであった。若い世代ではほとんど使われないうようである。O señor, o tío の敬称も使われないうようであり、現在では聞いたことはないとのことであった。人名定冠詞を伴う o Paco, o Antón の表現は時々聞かれるようだ。現代のガリシア語話者には、両親や祖父母に話しかけるために使用する *vós* は消滅しつつあり、古風な言い方になってしまったということである。**Vós, madriña, sodes coma unha nai para min.** (あなた様は、教母さん、私にとっては母ちゃんみたいな存在です。) 敬称 *vós* の使用の代わりに、カスティーリャ語の *usted* が新しい敬称としてとってかわり、ガリシア語の話し言葉のなかにカステラニスモ *castelanismo* として *usté* が侵入している。敬称 *vostede* は、書き言葉に見られるほかには、テレビシオン・デ・ガリシア TVG の放送で頻繁に聞かれるようになった意図的な言語政策と考えられる。

実際、上記の表5は、先にあげた地域(ルーゴ県フォンサグラダ市、コルーニャ県西部)において温存された中世の体系で、俗ラテン語に遡ることができる。カタルーニャ語、ガリシア語においてカスティーリャ語から取り入れた形式は、敬称の *vós* に遡る。カタルーニャ語 *vosaltres*, ガリシア語 *vosoutros* という形態がカスティーリャ語の *vosotros* と並行するように新たに創られ、ガリシア語 *vosoutros*[-formal 親称] は、*vós*[+formal 敬称] と区別するようになった。現代ガリシア語では、主語として *vós* / *vosoutros*, *vosoutras* が共起している。ラテン語の代名詞 *UŌS* に形容詞の機能をもつ *ĀLTĒRŌS* が結合して *vosoutros* が新たに創りだされた。現在、ルーゴ県北部、コルーニャ県最北部では *vosoutros* の形態が主語として認識されている。したがって *vós*

を包括的二人称複数形、vosoutrosを排他的二人称複数形と呼んでいる。排他的二人称は年齢層の高い人たちの話し言葉に現れる特徴がある。アルカイックな形式の敬称 vós は、現代語では vostede にとってかわった。こうして vós の使用は特別な敬意を表す年齢層の高い家族または村人への待遇形式として使われるとフェルナンデス・レイは記している。(Fernández Rei, 1999:75-76)

現代ガリシア語の場合は二つの敬称の形式が維持されている。

表 6

| | ダイクシス | 対称 | パラダイム |
|----------|-------|----------|--------|
| ti | 親称 口語 | 二人称単数 | 二人称単数形 |
| vós | 敬称 文語 | 二人称単数・複数 | 二人称複数形 |
| vostede | 敬称 口語 | 二人称単数 | 三人称単数形 |
| vostedes | 敬称 口語 | 二人称複数 | 三人称複数形 |

したがって、vós と vostede の主なる違いは、vós は今日では行政上の形式として使われ、vostede は日常会話に使用されている。それゆえに、現代ガリシア語では親称、中間称、敬称の三段階の体系を維持するようになり、vós は ti と vostede のあいだに位置することになるが、口語では浸透しなかった。

上でみた vós の形態を Freixeiro Mato は田舎臭い形式と捉え、しばしば年配の人々に向かって発せられる形式と説明している。しかし年配の人に向けられた形式とするのは正しくない。それは単なる敬称として扱われるにすぎないからである。むしろ地方的な用法に衰退したのは近年のことであり、すでに指摘したように vostede (s) に取って代わられたからである。Vós の使用を敬称としてとらえるかどうかを判断するのは現在の時点では難しい。

Rodríguez (1958-61) は、vós を人称代名詞二人称単数と複数、男性形と女性形であると述べている。Non vos digo que non; non vos fan caso. (あなたに否とは言わない、あなたには無駄だ。) この文は、事実上、単数でも複数でもその使用は口語において敬称の形式として取り込まれると解釈され、vos は人称代名詞二人称対格と与格であり、その定義は Franco Grande (1972) の辞書にも受け継がれている。さらに、人称代名詞二人称複数形で男性と女性形の主格として使われるという Rodríguez (1958-61) の定義もある。Vós ben sabedes o que tendes que facer. あなたたちはすべきことはよくわかっている。¿Vós vindes ou non vindes? あなたたちは来るのですか、それとも来ないので

すか？（アクセント記号の着脱は Rodríguez による）

次にあげる例文は一人に対する敬称としての *vós* で、動詞形態は二人称複数形ある。

— Que dor *sufrides*? / — O mesmo mal ca **vós**, *don Luís Mudarra*. Ese mal que **vós** fai deixa-las tendas ós primeiros claros da alborada. (「どんな悲しみに苦しみましたか?」/「ルイス・ムダーラ殿、あなた様と同じ不幸です。朝陽が上ったときにあなたに店を開けさせようとする不幸です。」) (Árvarez 1998:546)

もう一つの文を解釈してみたい。Digovos, **miña señora**, que non podo chegar antes. (みなさんに言います、私の家内へ、私は先に着くことはできません。) 与格の *vos* は単数から尊敬の複数形に意味的に変化したものであり、定冠詞 *a* をともわない *miña señora* の場合は、一人称 *miña* は所有形容詞の尊称形式である。このように尊敬の形式が二重に使われていると判断できる。

さらに Lema (2013:269) の作品のなかで、*vós* の使用を見つけることができる。

— Por certo, ¿quen vén sendo Oíu? Non me falaras desa persoa. / — Oíu? Oíu érache a *madríña Pascua*. E tamén o *padriño*... / En fin, é outro xeito que temos entre nós de nos dirixir ós vellos para non lles faltar ó respecto. Nosoutros non lles damos o trato de «vosa *mercé*», como fan os *fidalgos*; dicimoslles «**vós**» ou «*oíu*». Non sei se me entendes...

この小説は18世紀のガリシアをテーマにしたチャピアンというコルーニャ県西部ソネイラ出身の水夫が、スペイン船のキャビンボーイであるイギリス人のジム・ホーキンスに敬称の説明をしている場面である。郷土が使用する *vosa mercé*「貴殿」という待遇表現は、現在では使用されない。しかし、老人たちに話しかけるとき失礼にならないように仲間うちでは *vós* または *oíu* を使用するという。(Lema 氏からの私信 2019.7.04)。*Oíu* については、その他の敬称 (II-5) で後述する。

さらにコルーニャ県西部ソネイラ地域には、近世から歌い継がれている古謡 (*Cántiga popular*) がある。(Xosé María Lema 氏提供 2019.5.29)

San Cristoviño de Baio / **vós** tendes o que querés, / roubástelle a xente toda / ó voso irmán de Carnés”. (バイオの聖クリストボ様、あなた様は欲しいものを

持っている、あなた様がみんなから奪ったのね、あなたの兄弟のカルネースのクリストボさまからも。)

この場合の *vós* の使用は明らかに聖人クリストボ対しての敬称として使われているもので、所有詞 *voso* も敬称である。動詞のパラダイムは二人称複数形、与格 *lle* は複数形 *lles* を使用すべきところであるが単数形に融合したと考えたい。

この項目の最後に Rosalía de Castro (1863), *Cantares gallegos*. 詩集 23 に主格 *vós*, 対格 *vos*, 所有格 *vosa* のアルカイックな用法を見つけることができる。動詞の形態は二人称複数形であり (*serdes, tendes*), *vós* はカスティーリヤ地方のカスティーリヤ人 (*castellana de Castilla*) を敬う単数の敬称である。

e sendo **vós** tan sabia, / nunca de **vó-lo** pensara, / que de tan alto baixando / **vos** emporcases na lama; / (...) Si fun curpabre en quereros / coma ningún **vos** amara, / por ser de terra gallega / e serdes **vós** castellana, / en paz, señora, **vos** deixo / ca **vosa** soberba gracia, / (...) o que non **tendes**, señora, / i o que 'en Castilla n'achara.

そしてあなた様はとても博識がありますので、決してあなた様のそんなことを考えず、そんなに高いところから降りながら、あなた様をそんな汚い泥で汚しません、…誰もあなた様を愛さないのはあなた様を愛するのが罪ならば、ガリシアの地の出身なので、そしてあなた様がカスティーリヤ人なので、私はあなた様をそっとしておきます、なぜならあなた様の傲慢さは、…あなた様がお持ちでないものとカスティーリヤの地に見つからないものを…

同じく Rosalía de Castro (1864), *Contos da miña terra* に、次の例を見つけることができる。-E seica **vos** tampouco, ña' a tia, que **vos** sento tembrante com' unha vara verde. 「叔母さんあなたも、眠れないみたいだね、あなたは細い枝のように震えているのがわかるよ。」

II-3 EL, ELA / ELES, ELAS 「あなた(貴男・貴女)」

敬称の人称代名詞としての *el* の使用はガリシア語でも衰退の傾向にある。つまり、*tío, tía* と同様に田舎風の形式と考えられている。敬称の *vostede* があまりにも儀礼的なのに対して、*el, ela/ eles, elas* はいくぶん柔らかな印象を与える間接的な待遇形式といえる。例えば義父母と嫁、新任の教師と子供たち、同じ社会的地位にある同年齢の未知の大人たちにパーティーの席上、次

のような表現が可能である。**Ela** *quere un pouco máis de peixe?* (あなた、もう少しお魚いかがですか?)

Zamora Vicente (1970) は、ガリシア以外でもアストゥリアス・レオン語で用例を採集している。最近では Merlan (2010:229) もポルトガルのミランダ語のセンディン方言のなかに *Ah mai, **eilha** non bai?* (ああ、お母さん、あなたは行かないのですか?) の存在を立証している。

では、次の4つの待遇形式を比べてみよう。

- 1) **Ti** *vas tomar o café connosco?* 君は私たちとコーヒー飲むかい?
- 2) **A María** *vai tomar o café connosco?* マリアさんは私たちとコーヒー飲む?
- 3) **Vostede** *vai tomar o café connosco?* あなたは私たちとコーヒー飲みますか?
- 4) **A señora** *vai tomar o café connosco?* あなた(女性)は私たちとコーヒー飲みますか?

この例文から、次のように表すことができる。

表7

| | ダイクシス | 対称 | パラダイム |
|------------|----------|-------|--------|
| 1) ti | 親称-尊敬 既知 | 二人称単数 | 二人称単数形 |
| 2)a María | 親称+尊敬 既知 | 二人称単数 | 三人称単数形 |
| 3)vostede | 敬称+尊敬 既知 | 二人称単数 | 三人称単数形 |
| 4)a señora | 敬称+尊敬 未知 | 二人称単数 | 三人称単数形 |

2) の人名に定冠詞を付した用法は、ガリシア語では親愛を表すために使用され主語として機能する形式で自発的な代名詞化と呼ばれている。また、4) の *a señora* は未知の敬称である。かつて、私はポルトガル国境の田舎町ヴィラール・フオルモーザを散歩しているところ少年に話しかけられ、その後、未知の私に *O señor quere café na casa?* (あなたは家でコーヒーいかがですか?) と初対面の私に話しかけてきたことがあった。

現代ガリシア語ではダイクシスは単純に表すことができる。

表8

| | ダイクシス | 対称 | パラダイム |
|----------|---------|-------|--------|
| ti | 親称 - 尊敬 | 二人称単数 | 二人称単数形 |
| el / ela | 親称 + 尊敬 | 二人称単数 | 三人称単数形 |
| vostede | 敬称 + 尊敬 | 二人称単数 | 三人称単数形 |

表9のように、現代ガリシア語では単数形と複数形の間には補完的な関係があると考えられる。中間形式の *el / ela, eles / elas* は使用されない傾向にある。

表9

| | 単数形 | 複数形 |
|---------|-------------|----------------|
| 親称 - 尊敬 | ti | vós |
| 親称 + 尊敬 | el ela | eles elas |
| 敬称 + 尊敬 | vostede | vostedes |

ガリシア語の *el* の特殊な用法として、**El** era unha muller moi guapa. (あなたはとても美しい女性だ。)のような冗語的な使い方がある。本来ならば *ela* (彼女) が使われるが、*el* は意味のない丁寧形式と考えたい。

II-4 O TÍO / A TÍA 「あなた(貴男・貴女)」

最後に *o tío / a tía* の形式を RAG のガリシア語辞書から調べると、次のように見える。

1) 親縁関係のある伯父・叔父(おじ)、伯母・叔母(おば)を示す。2) 名前を知らない未知の人に対して使う。3) 年配の人物につける尊称の形式: **O tío** Antón é un vello moi simpático. (アントンさんはとても親切な老人だ。)の語義がみえる。**A tía** María como está? (マリアさんご機嫌いかがですか?) この文をカステイーリャ語にすると *Usted, señora María, ¿cómo está?* ということであろう。

ここで取り扱う形式は尊称で、主語としての名詞男性形 *o tío*, 女性形 *a tía* である。この形式も衰退していくが、村落のなかで存続している。*O tío* (*a tía*) は主語のほかに呼格として広く使われている。おそらく呼格としての使用が主語の使用にも広がったのであろう。敬称形式としての使用の足跡を見つけるのは複雑である。ガリシア語の辞書から調べてみると、Estravís の辞書には、村の中で年配の人に向けて発する尊敬の形式と記されている。さらに Rodríguez (1958-61), Franco (1972), Carré (1979) も同様である。

この形式は *o señor, a señora* のように敬称の形式となり文法化した「定冠詞 + 名詞」の進展した形式として著しく相関関係があると理解できる。実際、敬称の形式は多くの場合、文法化のプロセスがあり、最初の段階で名詞のまとまり *o señor, o tío, a xente* のように定着し、さらに進んで第二段階で *vossa merded* > *vosté* のように代名詞化した。

- 1) **Ó tío**, quere vir xantar connosco na casa? あなた、私たちと家でお昼いかがですか?
- 2) **O tío** quere vir xantar connosco na casa? あなたは私たちと家でお昼いかがですか?

表 10

| 呼格 | 主語 | 述部 | 目的語 |
|---------------|-------|-------|--------------------------|
| 1) Ó tío (ti) | 代名詞 | quere | xantar connosco na casa? |
| 2) ---- | O tío | quere | casa? |

この他に、Rosalía de Castro (1864), *Contos da miña terra*. (ロサリーア・デ・カストロ『故郷の昔話』)のなかで、夫のことを *meu tío* と表現している箇所を数カ所見つけることができたので、ここにあげて考察する。

-E pois ben, meu sobriño, e solo pró qu'és da sangre d' o **meu tío**,... Dios me valla... ¡eu querialle moito **á meu tío**! (「さて、ところで、甥っ子や、お前だけが私の夫の血縁者だから、… なんということかしら… 私は夫がとても好きだったの。」)

-E hay cen anos que foy esto, e aínda oxe espera á viudiña po-lo sobriño d' o **seu tío**. (「そうこうして100年がたった。今日も未亡人は、夫の甥っ子を待っている。」)

ガリシア語には「夫」表す語に *marido*, *esposo*, *home* などがあるが、自分の夫を尊敬し情愛を込めて表すために敬称として *tío* という語を作者のロサリーアは19世紀中ごろサンティアゴ・デ・コンポステーラ周辺のことばとして使用したと考える。現在では、古風な表現と考えられる。

「おばさん」を表す *ñ'a tia* の *ñ'a* は「私の」を示す所有形容詞 *miña* の省略形である。親族名詞を従える所有形容詞には定冠詞はつけないのが丁寧とされる。-*Esperaime, ñ'a tia*, que logo volvo! (「ぼくを待っておくれ、おばさん、すぐに帰るから!」) ロサリーアは親愛感を表現する方法として、「教母」を意味する *miña madriña*, *ña madriña* を好んで使用している。所有形容詞一人称 *mi* は敬称として使われる: *mi madriña*, *mi madre* である。現代ではこの用法は古風かつ固有なものとして感じられる。**Mi madriña**, pensei que non o contaba! (教母は、そのことを語らないと私は思った。)

レマ氏からの私信 (Lema, 2019.5.29) によると、コルーニャ県西部 Costa da Morte では年配の人のあいだでは *mi padre, mi madre* のような古語の使用がみられると述べている。この形式はカスティーリヤ語の表現ではなく、ガリシア語における一人称の所有形容詞 *meu, miña, noso, mi* に *señor, señora, padre, madre, tío, amo* をつけて敬意を表す形式である。その用例として次の表現を見つけることができる。

Mi padre! Que vai facer vosa mercé? (あなた様。貴殿は何をなさいますか。)
/ **Mi padre:** eu tamén von ir con eles; niso quedaramos antes de que vosa mercé chegase. / Vosa mercé toleou ou que? (あなた様、私も彼らと参ります。貴殿が到着する前にそこに私たちは居りました。/ 貴殿は我慢されましたか、それともどうなさいましたか?) (Lema 2013: 388, 391)

¡**Meu amo,** a casa arde! (ご主人様、家が燃えるよ。) Rosalía de Castro (1864), *Contos da miña terra*.

O tío と同類の *xefe* (旦那、親方) が、口語ガリシア語に存在して、時々、聞くことがある。この使用は呼格として未知の人に向けて使われる。Xefe, hai aparcadoiro no Porto Xufre?

(旦那さん、シュフレ港には駐車場ありますか? 70歳男 2019.8.03 収集 A Illa de Arousa)

II-5 その他の敬称の形式

一人または複数の対話者に適用される名詞・名詞句が敬称として使用されるものがある。

- 1) *Señor / Señora*: 大人に対して人名の前につける。Señor Xosé, Señora María.
この用法は *tío / tía* と同じ機能としてガリシアの田舎で使われている。
- 2) *Don / Dona, Señor / Señora*: 社会的地位または階級が高い人物につける敬称。洗礼名または名字の前につける。Dona Uxía, Señora Outeiro.
- 3) 社会的に地位のある、または高官に対して普通名詞の前につける *señor / señora* がある。Señor Presidente.
- 4) 社会的な地位や職務に対して儀礼的に使われる *ilustrísimo/ -a*, 社会的地位の高い人には *excelentísimo / -a* がある。さらに、組織や機関において慣習的に使われる称号がある。皇室には *Súa Maxestade*, 大学の学長には *Excelentísimo, Magnífico Señor* のようなものがある。Ten a palabra a Ilustrísima Señora Presidenta da Diputación. (県議会議長様からお言葉をい

たきます。) Dirixa a petición ó Excelentísimo Señor Vicerrector de Extensión Universitaria. (大学公開講座の副学長殿に申請してください。)

- 5) 日常会話のなかで聞き手に注意を引くような特殊な形式が使われる。

Aieiu: oír「聞く」の直説法完了過去形三人称 *oíu* と合体した形式で敬称として使われる。性数は不変化である。

Aieiu, póde (n) me dicir se este camiño vai empatar na estrada xeral? (ちょっとお聞きします、この道は幹線道路につながっているかどうか教えていただけますか?)

II-2で前述したように、コルーニャ県西部ソネイラ地域では *oíu* が敬称として使われる。

- 6) これとは別に親称として、仲間意識を表す *che*、女性に対して呼格として使われる *ne*、男性に対して呼格として使われる *ho* が現代ガリシア語のなかに存在する。

III. ガリシア語における待遇形式の変遷過程 (表 11) と待遇形式一覧 (表 12)

敬称形式の創造および変遷過程を表すと表 11 のように示すことができる。

1. 単数形で敬称を表現することから複数形の使用: *vós* は 14 世紀頃から始まり、19 世紀頃まで使われたが、その後急速に使用されなくなった。コルーニャ県西部など一部の地域では現存している。
2. 二人称において敬称を表現することから三人称の使用: *el, ela* が 18 世紀頃から使われ始めたが、21 世紀には使用されない。
3. 文法化する名詞句により代名詞に代替: *o tío, a tía* は 18 世紀頃から使用されるようになるが、21 世紀では使用されない。
4. 代名詞化する名詞句の文法化: 16 世紀に現れた *vostede* は、現代ガリシア語では唯一の敬称である。

表 11

| | 親称 | 敬称 | 敬称 | 敬称 | 敬称 |
|-------|---------------------|------------|----------------|---------------------|----------------|
| | <i>tibi > ti</i> | 単数>複数 | 2 人称> 3 人称 | 代名詞>名詞句 | 名詞句>代名詞 |
| 中世期 | ↓ | <i>vós</i> | | | <i>vostede</i> |
| 17 世紀 | | | <i>el, ela</i> | <i>o tío, a tía</i> | |
| 18 世紀 | | | ↓ | ↓ | |
| 19 世紀 | | | | | |
| 20 世紀 | | | | | |
| 21 世紀 | | | | | |

ガリシア語の待遇形式一覧

表 12

| | ダイクシス | 対称 | 動詞パラダイム |
|------------------|-------------------------------|-----|---------|
| ti | [－儀礼的] [－年齢] [－田舎風] [+親近感] | 2PS | 2PS |
| el, ela | [－儀礼的] [－年齢] [－田舎風] [+親近感] | 2PS | 3PS |
| vós 1 | [+儀礼的] [+年齢] [－田舎風] [－親近感] | 2PS | 2PP |
| o tío, a tía | [+儀礼的] [+年齢] [+田舎風] [－親近感] | 2PS | 3PS |
| vostede | [+儀礼的] [－年齢] [－田舎風] [－親近感] | 2PS | 3PS |
| vós 2 | [－儀礼的] [－年齢] [－田舎風] [+親近感] | 2PP | 2PP |
| eles, elas | [－儀礼的] [－年齢] [－田舎風] [－親近感] | 2PP | 3PP |
| vós 3 | [+儀礼的] [+年齢] [－田舎風] [－親近感] | 2PP | 2PP |
| os tíos, as tías | [+儀礼的] [+年齢] [+田舎風] [－親近感] | 2PP | 3PP |
| vostedes | [+儀礼的] [－年齢] [－田舎風] [－親近感] | 2PP | 3PP |

(儀礼的± formal, 年齢± idade, 田舎風± rural, 親近感± próximo)

(二人称単数 2PS, 二人称複数 2PP, 三人称単数 3PS, 三人称複数 3PP)

おわりに

ガリシア語の待遇形式の体系は表面上よりもかなり複雑である。パラダイムと社会的な使用については深く検討する余地がある。したがって、実際の会話における敬称の使用と形式の種類についての明確な意味は今後の研究課題である。

言語使用のなかで変化が生じていることを明らかにする研究が必要である。ガリシア語固有の形式が存続していることに満足するよりも固有の体系 o tío / a tía, el / ela が存在していることに注目するべきである。

敬称のそれぞれの形式を個別化するために新たなラベルを設定することが必要である。というのは el / ela と o tío / a tía は異なるものであるから。

歴史的にガリシア語が持っていた敬意を表す形式のすべての体系を立証す

ることが必要である。今日では徐々に使用されなくなった敬称の *vós* が辺境の地域では残存していることは確認できる。そしてガリシア語話者の大部分が敬称形式の一部を構成している *vostede / vostedes* はカステイーリャ語からの派生であると理解している。一方、敬称の *el / ela, o tío / a tia, vós* は若者層の多くには未知のものになっている。

参考文献 Bibliografía

- Alonso Estravís, Isaac (1995): *Dicionário da lingua galega*. Santiago de Compostela, Sotelo Blanco. 1995.
- Álvarez, R. e Monteagudo e Regueira (1986): *Gramática galega*. Vigo, Galaxia.
- Álvarez, Rosario e Xosé Xove (2002): *Gramática da lingua galega*. Vigo, Galaxia.
- Carré Alvarellos, L. (1979): *Diccionario galego-castelán*. A Coruna, Moret.
- Carballo Calero, Ricardo (1979): *Gramática elemental del gallego común*. Vigo, Galaxia. Séptima edición.
- Costas González, Xosé-Henrique (2013): *As falas de orixe galega do Val do Ellas* (Cáceres –Estremadura) . Vigo, Xerais.
- Ferreiro, Manuel (1996): *Gramática histórica galega*. Santiago de Compostela, Edicións Laiovento.
- Fernández Rei, Francisco (1999): *Dialectoloxía galega*. Vigo, Xerais.
- Franco Grande, X. L. (1972): *Diccionario galego-castelán*. Vigo, Galaxia.
- Freixeiro Mato, X. R.: (2006) : *Gramática da lingua galega*. II Morfosintaxe, Vigo, Promocións Culturais Galegas.
- Frías Conde, Xavier (1999): *O galego exterior ás fronteiras administrativas*. Gijón, VTP.
- Frías Conde, Xavier (2011) : “Revistando o sistema dos pronomes de cortesia no diassistema galego-português”, *RLLCGV*, XVI, pp. 113-124.
- Lara Bermejo, Víctor (2018) : “Imperativos y cortesía en las lenguas romances de la Península Ibérica”, *BHS*, 95. Peter Lang, pp. 1-23.
- Merlan, Aurelia (2010) : “Sistemas de tratamento en variedades astur-leonesas”, *Homenaxe al profesor Xosé Luís García Arias*, tomo I, ALLA, Oviedo, pp. 217-242.
- Real Academia Galega e Instituto da Lingua Galega (1990): *Diccionario da lingua galega*. A Coruña.
- Real Academia Galega e Instituto da Lingua Galega (2012) : *Normas ortográficas e morfolóxicas do idioma galego*. Vigo, Galaxia.
- Rodríguez González, E. (1958-1961): *Diccionario enciclopédico gallego-castellano*. Vigo, Galaxia.
- Zamora Vicente, A. (1970): *Dialectología española*. Madrid, Gredos.

文学資料 Corpus

- Rosalía de Castro (1863): *Cantares gallegos*. Edición Facsimilar, Xunta de Galicia, 2013.

Rosalía de Castro (1884): *Contos da miña terra*. Edición de T. Asaka, Toquio, DTP, 2014.

Lema, Xosé María (2013): *Costa do Solpor*. Vigo, Xerais.